

番号・課題名	10 畜産経営情報の高度利用試験 ～牛群検定事業参加農家の拡大をめざして～
所属・氏名	応用技術部 ○野村友宏・井上和典(現 三宅分場)

〔目的〕

都市化が進行するなかで、都市畜産農家経営が安定存続するためには、都市環境に適した経営形態が必要である。そこで都内畜産農家の経営・技術上の問題点を調査・分析し問題解決策を農家に還元するため、現行の「情報センター」機能を活かした経営研究を実施する。そのために、牛群検定参加農家のデータを調査・研究し、酪農家の牛群の資質向上や飼養改善のための情報を、牛群検定に参加していない酪農家へも提供する。

〔方法〕

1 サンプルング

夕方及び朝の搾乳時にミルクメーターにて採取。

2 乳質測定

ミルコスキャンを使用して乳脂肪率、乳蛋白質率、乳糖率、無脂固形分率を測定。

3 体細胞数の測定

フォソマチックを使用して体細胞数を計測。

〔結果〕

平成 14 年の経産牛 1 頭当りの年間乳量(1～12 月)は 8,547kg であった。都府県の同乳量は 8,499kg であり、平成 4 年から連続して都平均が都府県平均を上回っている。また、4%FCM 量の農家毎成績では 10,000kg 突破が 2 戸に増え、乳質改善が進んでいる。乳質については乳脂肪率 3.92%、乳蛋白質率 3.18%、無脂固形分率 8.56%、体細胞数 123 千個であった。

牛群検定は、昭和 55 年 12 月 7 戸 150 頭で開始した泌乳能力検定がその前身で、農家の要望により 57 年 8 月に「東京都牛群検定組合」となった。

この間、63 年からデータをオンラインで送受信するようになったことで検定成績の農家還元が早まり、経営改善のための情報が迅速に活用できるようになった。その後、平成 8 年から検定成績の還元が CD-R 化され、12 年 4 月からは一部のデータのオンライン受信が可能になった。

14 年度 2 戸、さらに 15 年度に入って 1 戸が新規に加入し、平成 15 年 5 月現在で 33 戸 950 頭規模で検定を実施している。

〔今後の課題〕

データの農家への還元方法(web ページによる公開)

新規参加農家の開拓

表1 加入状況

(平成13年度末現在)

	検定牛 頭数	検定 農家数	1戸当り 頭数	経産牛 頭数	成畜 戸数	1戸当り 頭数	検定農家 比率	検定牛 比率
東京	926	30	30.9	2,660	120	22.2	25.0	34.8
都府県	205,01	85,783	35.5	633,600	21,000	30.2	27.5	32.4

表2 乳質の平均値

	東京	都府県
乳脂肪率	3.92%	3.95%
乳蛋白質率	3.18%	3.27%
無脂固形分率	8.56%	8.75%

表3 乳質の平均値(都内)

	乳脂肪率	無脂固形分率	体細胞数(千)	生菌数(千)	乳量
検定農家	3.81	8.71	258.3	10.1	224,661
非検定農家	3.94	8.67	338.5	30.3	184,804

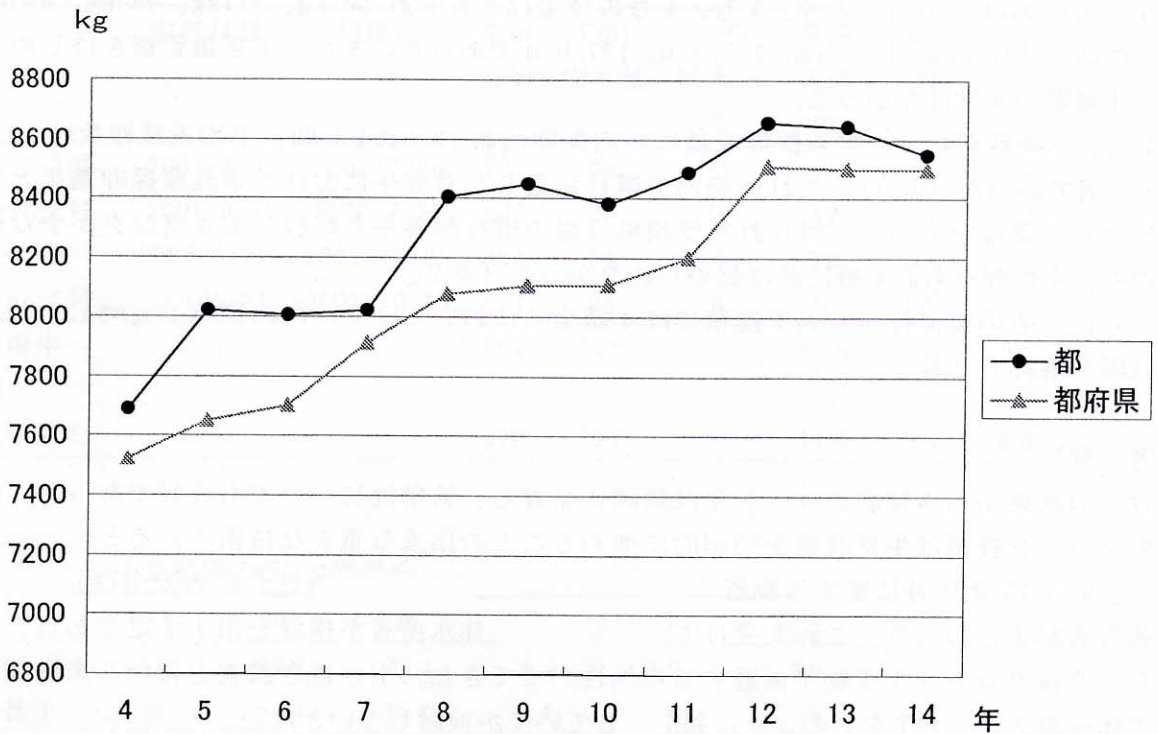


図1 乳量の推移